

気仙沼市東日本大震災復興記念事業について

1 趣 旨

東日本大震災から10年の節目となる令和３年において、「犠牲者への追悼」、「支援に対する感謝と関係の継続・発展」、「復興の発信」、「復興の取組を次世代に引継ぐ復興のレガシー」、「世界とつながる 豊かなローカルの実現」などをテーマに、市民等から実践を伴うアイデアを募集し、市民、地域、産業界、教育機関、行政等の連携の下、気仙沼市東日本大震災復興10年記念事業（以下、「記念事業」という）を実施します。

2 事業内容（予定）

記念事業の趣旨に沿った事業とし、対象となる事業や経費、募集方法等、詳細については、本年４月に設置予定の（仮称）復興記念事業推進委員会（市民委員を含む）において、市議会や市民の皆様の意見を踏まえ、定めるものとします。

(1) 事業区分（例）

①市主催事業

②市民との協働事業（市が事務局を担う団体が行う事業に対し、事業費の一部を負担金として交付）

③民間団体主催事業（民間団体が行う事業に対し、事業費の一部を補助金として交付）

④冠事業（名義後援事業等）

(2) 事業期間

令和３年３月～12月

(3) 募集期間

1次募集：令和２年８月～10月

2次募集：令和３年２月～４月

※市主催事業を除く。

※冠事業については、令和２年８月から随時募集

※3次募集については、予算執行状況により検討

3 財 源

東日本大震災復興記念事業基金繰入金（40,000千円程度を想定）

※上記基金繰入金以外の財源（国、県、財団等の補助金）の活用も模索

※執行状況に応じ、負担金・補助金間の流用を検討

4 主なスケジュール

- 令和2年1月19日 市民委員会による検討
 2月 新年度予算案に関連経費を計上
 東日本大震災調査特別委員会に説明
 3月 復興推進会議に説明
 4月～7月 (仮称)復興記念事業推進委員会設置, 募集要項等作成
 8月～ 募集, 事業決定

3年3月～12月	事業実施, 負担金・補助金支給
事業終了後	実績報告, 負担金・補助金確定

(令和元年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市											予算計上	予算議決

(令和2年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市	推進委員会設置 募集要項等作成			1次募集			事業決定・概算払い			2次募集		
事業主体				申請			準備				実行	

※1次募集分の事業をまとめたチラシを作成し, 配布するなど, キャンペーン活動を展開

(令和3年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市	2次募集	事業決定 概算払い		予算残がある場合 3次募集・事業決定・概算払い							負担金・補助金確定	
事業主体	(申請)・準備・実行 ※事業終了後, 2か月以内に実績報告									実績報告		

※2次募集分の事業を追加したチラシを作成し, 配布するなど, キャンペーン活動を展開

【参考：気仙沼市震災復興市民委員会（令和2年1月19日開催）の主な意見】

- ・支援してくれた人に感謝の気持ちを伝える「恩返し」のほか、いただいた支援（恩）を、私たちと同じように、地震や台風等の被害で困っている人に贈る「恩送り」の考え方もある。
- ・「恩送り」では、被災地にすぐに応援に行ける体制とその仕組みづくりが必要であり、これを継続して行うことにより、震災で培った経験・教訓を気仙沼市の文化として根付かせることもできる。
- ・10年を記念し、やって終わりではなく、これを始まりとし、持続可能なものとする事で、市民文化として根付く。阪神淡路が良い例。4年に1回行うのもありえる。
- ・お振舞を伴うイベントやみなとまつりを通じて、感謝とともに、気仙沼らしさ、魅力、元気になった人・まちの姿を伝えることが大事。
- ・若い世代が主体的に参加できる仕組みが必要。
- ・著名人に協力を求める。
- ・毎年やっていることは見せ方を変えただけではだめ。
- ・スローフードフェスや世界防災会議、漁港漁場大会など、SDGsの目標、特に「14 海の豊かさを守ろう」に関係する世界、国レベルのイベントを誘致してはどうか。
- ・長期スパンであれば、世界的なヨットレースの誘致も候補となる。
- ・支援してくれた人々が年に一度は気仙沼に来る日、きっかけをつくる（イベント開催等）。

事業例

新規事業（シンボル事業）	既存事業の拡充	民間主催事業への補助
<ul style="list-style-type: none"> ・大盆踊り大会（気仙沼を築き上げた先人にも感謝を伝える） ・復興イベントの三陸沿岸道路利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・みなとまつりの拡充（支援してくれた人々に来たいと思わせる仕掛け） 【一例】 ・開催日を食材が充実する秋に変更し、プログラムを充実 ・支援者等を栈敷席に招待 ・2泊3日の気仙沼体験プランの用意等 	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝を伝えるもの ・誰かの役に立つもの 【一例】 ・「鎮魂」「希望」「感謝」を示す3本の「光の慰霊碑」プロジェクト

- ・音楽イベント（寄贈ピアノの活用、洋上フェス等）
- ・気仙沼スローウォーク（市民等に復興したまちの姿をガイド付きで伝える）

